

みどりの大使が行く!



2025
ミス日本
みどりの大使
佐塚 ころこ

緑の羽根着用キャンペーン

みなさんこんにちは。佐塚ころこです。みどりの月間(4月15日～5月14日)に向けて緑の募金の呼びかけ活動の一環として石破総理に緑の羽根着用をお願いしました。首相官邸に入ることは初めてで、メディアもたくさん見えるということで緊張していましたが、石破総理が温かい笑顔でお話してくださったので柔らかい雰囲気でお話をすることができました。歓談では日本の森林率や木材の利用方法などのお話で盛り上がりました。特に、石破総理がCLTで地方創生を実現する議員連盟の会長であることもありCLTについての話題で話が弾みました。緑の募金は植樹、伐採、森林の維持などの国内の森林整備はもちろん震災などの災害復興のための助成金、未来を担う子どもたちの森林環境教育、そして海外の緑化活動にも使用されています。皆さ

んも緑の募金に協力して私たちの地球の未来を守っていきましょう!

総理との話題に上がったCLTは身近なところにも

私は3月に山梨県で行われた林業視察の際にキートック山梨工場さんに伺い、初めてCLTのことを知りました。さらに、私が通う国際基督教大学の体育館はカラマツのLVL折板構造とCLT仕上げ型枠を使って造られており、第22回木材活用コンクールにおいて「木材活用賞」をいただいております。今まで何気なく使用していた体育館も改めて見るとたくさん木によってできており、今後は木の温もりをより一層感じながら学生生活を送りたいと考えました。



中信森林管理署の一日署長に就任

4月26日～27日にかけて長野県上高地に伺い、中信森林管理署の一日署長として活動し、上高地開山祭にも参加しました。森林管理署長として、林業の現場で力を入れている点の視察を行いました。現場視察では治山事業地、本数調整伐実施地、森林整備事業地、中信木材センターの4つの現場に赴いて説明をお聞きしました。



芦間川の治山事業地では、令和2年度に施工された第1号鋼製スリット谷止工やコンクリート谷止工を見学しました。このような谷止工を治山ダムとして何箇所も作る

ことで土砂の移動速度を緩やかにできます。地面の浸食防止となり、土砂災害などを防ぐことができます。現在は深間工35基と山腹工7箇所の工事が進められており、今後は深間工2基を計画している。安全性確保に努めているそうです。



本数調整伐を実施した馬羅尾国有林のヒノキ林を見学しました。昭和61年に2・53haの土地にヒノキが3300本/haの密度で植えられ、本数調整伐後の現在は40年生のヒノキが約950本/haの密度で生育しています。植栽木等のうち生育の遅い木を伐採する本数調整伐を行うことで保残木の生育を促し、現在は水源涵養保安林として山地災害を防ぐ役割を担い、土壌の緊縛効果や地表の浸食の防止効果等の機能を発揮



「ミス日本みどりの大使」とは

公益社団法人国土緑化推進機構Webサイト「みどりの大使」
(<https://www.green.or.jp/promotion/midorino-taishi/entry-1679.html>)



森林整備事業対象地は複層伐が行われている唐沢国有林を見学しました。唐沢国有林には、スギが1・69ha・カラマツが4・12ha植栽されており、水源涵養保安林としての機能を持っています。複層伐を行うことで森林を維持し、水源涵養機能を失うことなく発揮させているのだと伺いました。しかし、伐採後の再造林の初期保育費用は高く、再造林コストの約7割を占めている



しています。

最後に若手の林業従事者の方たちと意見交換会を行いました。林業に携わっている若手の方々之苦勞ややりがいなど刺激的な



ことに驚きました。コスト削減と効率化は大事で、今は大型機械によるかき起こしを行っているそうです。 中信木材センターでは長野県の北部、中部、南部から集まった木材を拝見しました。カラマツやスギだけでなくヒノキ、ナラ、サクラの木など種類に富んだ木材が置いてあったことが印象的でした。また、「木は年輪の数だけ乾燥させなければ使えない」とお聞きし、伐採から顧客の手元に渡るまでは長い年月がかかっているということに改めて実感しました。



4月27日は、上高地開山祭にて一日署長としての活動や挨拶を行いました。私は長野県出身なのですが、上高地に行くのは今回が初めてでした。快晴だったこともあり空気の綺麗さや水の透明感、豊富な自然に驚きました。上高地は国有林の「保護林」に指定されて以来、110年間自然環境が保全されています。現在、土砂災害が起きて

上高地開山祭に参加しました

お話ばかりでした。特に印象的だったことが治山も森林整備も生物多様性を考慮して進められているということです。治山では傾斜が厳しい谷止工を作ってしまうと魚の遡上に影響を与えたり、全ての森林を一度に伐採してしまうと鳥や動物たちの住処がなくなるといった弊害も起きます。人間だけの発展を考えるのではなく他の生物と共存して生きていくための施策が大切だと感じました。



もすぐに対処し生命を守るような設備があったり、多様な生物と共存できる未来が作られていたりしていることは林業関係者の方々のおかげだと感じております。今回、一日署長就任をするにあたり沢山の現場見学を通して林業の大変さややりがいを知ることができ、上高地の魅力も実感できました。今後も様々な活動を行い森林の大切さを発信していきたいです。

